

編集後記

本号では、巻頭に昭和63年4月に就任された有江幹男所長から、入試雑感として「駒場に来て想うこと」を掲載しました。座談会では、この10年を振り返るとともにこれからの大学入試センター試験等について、加藤、小坂、肥田野の各先生、そして、堯天前所長、小林副所長にお話をいただきました。

入試随想では、東北大学教養部奈良先生から「大学入試と大学の問題」を御随筆いただきました。

報告では、当センターの柳井先生と清水先生から「進路指導と大学情報に関する調査結果について」のアンケート調査結果を掲載しました。

事例紹介では、信州大学経済学部舟岡先生から信州大学経済学部の入試改革以降の入学生を対象とした追跡調査

の結果を、紹介していただきました。

研究ノートでは、当センターの山田先生他から「国公立大学における受験機会複数化のもとでの受験者の行動」、岩坪先生他から「大学が重視する入試教科と受験生の学力特性―共通第1次学力試験の5教科得点を基礎にして―」、鈴木先生から「昭和62年度共通第1次学力試験「理科」各課目のテスト特性の比較」、柳井先生他から「昭和54年度から59年度までの共通第1次学力試験（国語・数学Ⅰ・英語Ⅱ）に関する項目分析」をそれぞれ公表しました。

本号の発刊にあたりお忙しい中を座談会に御出席いただいた、加藤、小坂、肥田野の各先生、御執筆いただいた、奈良、舟岡の諸先生に厚くお礼申し上げます。